

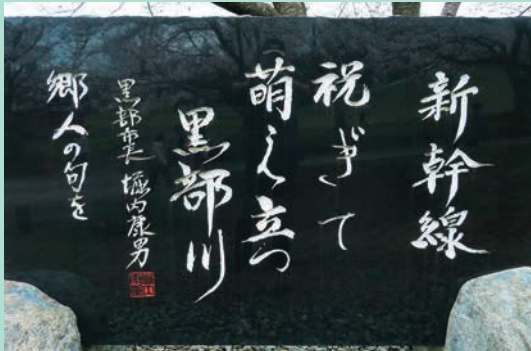
題字  
大島文雄先生

# 人文

じんぶん



早稲の香やわけ入る右は有磯海



新幹線祝ぎて萌え立つ黒部川

## 総会記念講演

俳句の楽しみ - 詠む・読む・知る -

森川 敬三 氏(国語国文学 昭和57年卒)

私たちは、日ごろ様々な場面で俳句にふれています。実は、新聞や雑誌のコラムなどにしばしば引用される「明治は遠くなりにはけり」は「降る雪や明治は遠くなりにはけり」(中村草田男)、「物いへば唇寒し」は「物いへば唇寒し秋の風」(松尾芭蕉)に由来しています。また、これまで一度も俳句を書いたことのない人でも、「この発見や感動を俳句にできるかもしれない」と、心に一句を思い浮かべた経験があるのではないのでしょうか。

今回の講演では、俳句の楽しみ方と季語の魅力についてお話しいたします。俳句の世界に親しんでいただければ幸いです。

(会場日時等はp8をご覧ください。)

### 人文学部同窓会の今後に思いを馳せる

富山大学人文学部長 伊藤智樹… p 2

偏屈者のご挨拶 人文学部同窓会会長 廣瀬裕一… p 3

写真で見る富山大学の今と昔～「ヘルン文庫」～ …… p 3

中本先生 安らかにお眠りください

山口 寛 (哲学 昭和53年卒) …… p 4

研究室から／国際関係論 講師 須永修枝… p 4

2025年度学位記授与式 …… p 5

富山大学統合二十周年記念式典開催される …… p 5

研究室から／日本語学 講師 川島拓馬… p 5

卒業生進路状況…… p 6

人文学部おたから紹介 (第一回)

一資料展示室と二枚の写真一 准教授 入江幸二… p 7

新刊案内、会費の納入状況 …… p 7

同窓会総会、人文の集い …… p 8

異動、訃報 …… p 8

### 富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話：(076) 445-6143

FAX：(076) 445-6142

alumni1@hmt.u-toyama.ac.jp



# 人文学部同窓会の今後

## 思いを馳せる

富山大学人文学部長 伊藤 智樹



三年前の六月、梅雨の合間を縫うように晴れた週末に、私は大学時代のクラスの同窓会に参加するため、福岡にいました。

加するため、福岡にいました。教養教育課程の第二外国語をとにも学んだクラス約四十人のうち、半数近くが集まったでしょうか。海外から駆けつけた者もいました。齢五十前後で仕事は多忙なはずの同窓生が、なぜそれほどまで集まったのか。それは、福岡在住のクラスメイトが末期の癌になり、余命宣告を受けたことが、本人と特に親しかった友人を通じて知らされたからでした。彼がもう一度皆で会いたがっている、と。

にぎやかな宴席の真ん中で、

彼はとても満足そうでした。私にとつては意外なことに、彼は過ぎし日に思いを馳せるよりも、新しい知にふれることを渴望していました。なあ伊藤、お勤めの本はないか、教えてくれ。こんなふうには迫られた私には、たじろいで歯切れの悪い答えに終始し、これぞと一冊を推挙することが遂にできませんでした。

二十年以上も大学教員でいながら、なんとも情けない話ですが、同窓会について何か書こうとしたとき、あの時のことが頭に浮かんできます。私が（おそらくクラスメイトたちも）そうだったように、人の縁が限りある機会と悟るとき、私たちは万難を排してでも集まってこようとするのかもしれない。そして、多くの場合、様々な理由でそのタイミングを逸し、日々の生活に流されるものなのかもしれません。

先日（二〇二六年三月二十四日）開催された卒業祝賀会は、

とても楽しいひとときとなりました。しかし近年、学生があまり出席しなくなる傾向も指摘されるようになってきました。

思い返せば今から十一年前、卒業予定者の一人に祝賀会の出席を確認したら「出ません」「どうして?」「(参加費が)高いから」と言われて絶句したのが、時流の変わり目だったような気がします。かつては、同じ学年で集まれるのはこれで最後、という意識が感じられたのですが、この前後からそうした雰囲気にならない人が徐々に目につくようになってきたようにも思います。その程度が高まると、

同学年に探りを入れて「私も参加を見送ろう」という同調的不参加が、もともと同学年内での疎遠を理由にした不参加とあいまって、全体的に淡白な傾向になってきたのかもしれない（このあたりについては、コーズ・分野によって状況が異なる可能性もあります）。

他方で、大学を挙げての動きとして、オンライン・プラットフォーム「CHINER（チャイマー）」の導入が進められています。これは、主に大学院生、

特に留学生の修了・卒業後の進路を把握することを直接の動機

としています。留学生の場合、帰国してから就職活動を行うケースもあり、指導教員との連絡経路が途切れると「進路不明」という扱いのままになってしまいます。これに対して、在学中から学生がオンライン・プラットフォームに登録し、卒業後も

自分のプロフィールやキャリア情報を自主的に更新することで、最新の進路情報を大学側が把握しやすくなるのが期待されているのです。

これが実現すれば、富山大学の同窓会もオンラインをベースとしたものに転換していくだろうと考えられます。このような時代にあつて同窓のつながりは、どのようなものになってゆ

くのか、私にはまだ見当が付きません。黄順姫『同窓会の社会学——学校の身体文化・信頼・ネットワーク』（世界思想社、二〇〇七年）を紐解くと、同窓会のつながりには、過去の文化を共有する意識と、人的ネットワークに関する期待や信頼とがいずれもかわっていると考えられます。コネクションとか人脈といったとらえ方には抵抗も感じつつ、しかし生活や仕事で

困ったときは同窓会の伝手を頼

る、といったイメージです。このような二面性は、たとえネットのつながりが主軸になっても温存される可能性はあると思います。オンライン・コミュニティのメンバーに、一方では有用

と思ってもらえる情報を供給しながら、他方では、実利的な側面に還元できない過去の振り返りとなつたし、人の縁を貴重なものとして味わえるような対面の機会を提案し続けることも、ニーズはあり続けるかもしれない。卒業生たちも、たとえ日々の些事に忙殺されていたとしても、何かのタイミングで人の縁を実感することもありえるでしょう。再会して、ほんの

く旅立った彼が、私に教えてくれたように。

◇◇◇◇◇  
伊藤智樹（いとう ともき）

一九七二年、愛媛県生まれ。二〇〇一年四月より富山大学人文学部講師、現在、社会文化コース教授。専門は社会学。主に難病と高次脳機能障害の人同士の支えあい（ピア・サポート）をフィールドワーク等によって調査する研究を行ってきた。二〇二五年四月より人文学部長。（富山市在住）

# 偏屈者のご挨拶

人文学部同窓会 会長 廣瀬 裕一



お前みたいな者が？ と言われそうですが、昨年より会長を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。

本会の目的は、先ず以て会員相互の親睦を篤くすること（会則第二条）にあります。そこで、本会報「人文」（年一回発行）やホームページ（年三回更新）により情報を発信するとともに、会員が集う機会として次のような事業を行っています。

参加をお待ちしています。昨年の総会の日は、交流会のあと富山駅前に会場を移して有志による二次会も行い、盛り上がりました。

その他、本会が共催等の形で企画している行事もあります。

富山大学同窓会連合会の総会・講演・懇親会（七月）や大学主

催のホームカミングデー（例年十月）などです。出身学部の枠を超えて集う機会であり、昨年

私は、かつての職場の同僚（教育学部・経済学部の同窓生）や

学生時代に同じサークルだった旧友（理学部同窓生）とも再会

することができました。

このような機会を通じて、同窓生相互の親睦が深まることを念じております。

冒頭の「お前みたいな者」について補足します。

富山の学部生だったころは、哲学を専攻して思索にふけり、天文同好会に所属。ブルックナ

ーに心酔し、北アルプスを歩き回っていました。二十歳の時、地域の成人式には出ずに独りで初めて劔岳に登り、これが俺流の成年儀礼だ、とうそぶいている偏屈者でした。

こんな社会性のない人間が、やがて教育の仕事などに携わったものですから、なかなか上手くいきませんでした。馬齢を重ねる中で偏屈さは多少緩和されたかもしれませんが、元々人づき合いが下手な者には同窓会長など全く相応しくないので、お引き受けした以上は一所懸命やります。

本会の行事等でお目にかかるのを楽しみにしております。

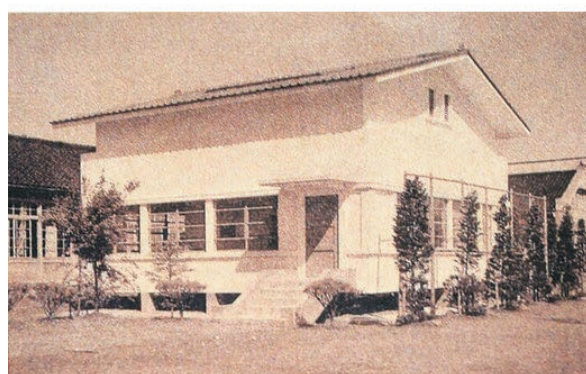
（富山市在住）



（五十年前、劔岳頂上にて）



## 写真で見る富山大学の今と昔 ～「ヘルン文庫」～



「ヘルン文庫」は、かつて「小泉八雲図書館」として蓮町キャンパスにありました。ラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn, 1850～1904：日本に帰化して小泉八雲と称した）の旧蔵書です。世界の至宝とも言われる貴重な蔵書（洋書・和漢書2千冊以上）は、現在富山大学五福キャンパスの中央図書館5階で定期的に一般公開されています。NHK連続テレビ小説「ばけばけ」で注目された「ヘルン文庫」へぜひ、お出かけください！

定期公開：毎月第3水曜日13時～16時（中央図書館休館日を除く）  
※事前申込不要、どなたでもヘルン文庫をご見学いただけます。



# 中本先生

## 安らかにお眠りください

山口 寛 (哲学 昭和53年卒)



二〇二五年十月、私は数年ぶりに「人文の集い」に参加するため、富山に向かっていました。久々に訪れる富山大学に到着する直前、学生時代にたいへんお世話になった中本先生は元気な顔を巡らせているだろうか、とふと思いを巡らせていました。

それが、到着後、先生がお亡くなりになったと聞くことになりました。夢にも思いませんでした。突然深い悲しみに包まれました。

私が哲学の専門課程に進んだのは一九七五年でした。私は明確な目標があったわけではなく、なんとなく哲学を専攻し、最初の一年半は一般教養課程だったこともあり、大学生活は決して充実しているとは言えませ

ませんでした。何を学ぶかも十分定まらなまま専門課程に進みましたが、そこで中本先生に出会えたことが私の大学生活を変え、いや、人生を変えたといつてもいい大きな転機となりました。約二年半、中本先生の親身な指導が今も鮮やかに思い出されます。講義ではいつも学生の話をよく聞いてくださり、問いかけを通して思索を促す先生の姿勢に触れ、知ることに楽しさと責任を覚えていただきました。時に厳しく、しかし温かい眼差しで私たちを導いてくださったことに、改めて感謝の思いが込み上げます。私は、授業以外に、様々な社会運動にも関心があり、熱心に打ち込んだ時期もありましたが、その方面でも様々なアドバイスをいただいたことは私の人格を形成するうえでも大いに力となりました。

の映画館で偶然先生と出会ったことがありました。ジェームズ・ディーン主演の「エデンの東」を同じ上映回に鑑賞していたのです。近くの喫茶店に誘ってくださり、作品の感想を語り合ったひとときは忘れられませんでした。学生と対等に意見を交わしながら、文化や人生を語る先生の穏やかな口調が、今も耳に残っています。

結婚が決まった折には、婚約者とともに報告に伺い、心からの祝福の言葉をいただきました。披露宴の席には、遠路はるばる神戸にまでお越し下さり、温かいお祝いの言葉を頂戴したことは、私たち夫婦にとつて生涯の宝物です。

先生の教えは、知識以上に「人としてどう生きるか」を問いかけるものだったと思っております。静かに誠実に学問に向き合うその背中が、ずっと私の人生の指針となってきました。先生、本当にありがとうございました。安らかに眠りください。

(西宮市在住)

人文学部で哲学を講じられた中本昌年先生は二〇二五年十月八日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 研究室から

#### 行動・社会文化領域

##### 国際関係論分野

講師 須永 修枝

二〇二五年度、国際関係論分野の学生十名が卒業しました。この年度の卒業論文の題目を少し紹介しますと、「東ティモールにおける二〇〇六年暴動はなぜ発生したのか―PSC理論を用いた暴動の包括的理解―」「韓国における社会運動の発生・大規模化要因―朴槿恵弾劾運動を事例に―」「反米感情はいかにしてアメリカの対韓政策を転換させたのか―アメリカ政府のトラウマと韓国民主化―」「性犯罪裁判における同意をめぐる判断過程―二〇二三年刑法改正後の判決に関する質的分析―」など、まさに国際関係論分野らしく、地域も対象も多様性に富んでいました。



林夏生先生は、時に厳しくもありながら、学生たちが主体的に考え、学べるよう授業を工夫しておられ、学生たちが成長していく姿を本心に嬉しそうに、とてもチャームングにお話しされていました。前述の卒業生たちが、試行錯誤しながら卒業論文に取り組み、その過程で互いに学び合い、教え合いながら学問に励む姿勢は、ご逝去された林夏生先生がこの研究室に築いてくださった、かけがえない財産です。これからも、国際関係論分野は学生たちの学び合い、教え合いの姿勢を大切にしながら、複雑怪奇な国際関係を情熱的に、そして冷静に分析できる学びの場であるよう、学生たちとともに挑戦を続けていこうと思えます。

二〇二四年三月に行われた林夏生先生を偲ぶ会にてお会いしたみなさまも、そうでないみなさまも、世界の出来事に戸惑いながら、さまざまな感情を抱きながら学び続ける学生たちを、そして国際関係論分野という学びの場を、今後とも見守っていただきますよう、よろしくお願いたします。

私は二〇二〇年四月に人文学部の特命助教として着任し、林夏生先生から国際関係論分野の授業の方法、運営の仕方を学びました。

二〇二六年三月二十四日(火)、富山大学学位記授与式が挙行されました。今年も例年使用している富山市総合体育館が改修工事のため、高岡テクノドームで開催されました。終了後、人文学部卒業生はバスで移動し、富山市のホテルグランテラス富山で、人文学部と大学院心理学及び人文系プログラムの学位記授与式が執り行われました。

### 2025年度 学位記授与式



祝賀会の様子

その後人文学部と同窓会共催の卒業・修了祝賀会が、伊藤学部長の乾杯で始まり、昨年好評だったビンゴゲームは大いに盛り上がりました。緊張から解き放たれた参加者は、恩師や友人との記念撮影などそれぞれに名残を惜しみつ、会場は華やかな雰囲気になっていました。

## 国立大学法人富山大学 統合二十周年記念式典開催される 記念シンポジウムに同窓生の塚本さん登壇

二〇二五年十月一日(水)午後一時より、国立大学法人富山大学統合二十周年記念式典・記念シンポジウム(富山大学主催、富山大学同窓会連合会共催)が黒田講堂で開催されました。

齊藤滋学長の挨拶、各方面からの祝辞、中尾哲雄富山大学同窓会連合会初代会長からの挨拶がありました。

引き続き二つの記念シンポジウムがあり、人文学部同窓生の塚本昌紀氏(文化人類学 平成



塚本 昌紀

21年卒、一般社団法人地域・観光マネジメント代表理事)も登壇され、「富山大学のNEXT 20年に向けて」をテーマに、富山大学での経験と今後さらに魅力ある大学となるための提言を自由な発想で語り合いました。

式典後開催された懇親会では、和やかな雰囲気の中、多くの同窓生が交流を深めました。

二〇二六年度  
富山大学同窓会連合会総会の  
二)案内

日時 七月十八日(土)  
午前十時

午後一時十五分  
会場 富山電気ビルディング

総会、記念講演、懇親会が予定されています。

### 研究室 から 言語文化領域

東アジア言語文化コース  
日本語学分野  
講師 川島 拓馬



卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。日本語学研究室では、ここ五、六年の間に大きく様子が変わることとなりました。長らく本学でご活躍してこられた中井精一先生が二〇二〇年度をもって同志社女子大学にご転任され、小助川貞次先生も翌二〇二一年度をもって定年退職を迎えられました。一方で、二〇二一年度に川島が着任し、そして二〇二五年度に高城隆一先生が着任されました。つまり、教員の構成ががらりと入れ替わったこととなります。近年に着任した二名はいずれもいわゆる若手の教員であり、日本語学研究室は本学部の中でも随一の若さを誇っていると言えます。経験豊かな先生方がいらっしやった時代と比べれば至らない点もあるかと思いますが、苦心しながらも楽しく、学生たちと向き合っている今日この頃です。

日本語学は伝統的な学問分野でありつつも、新しい視点を盛んに取り入れています。コーパスと呼ばれる多量の電子データから用例を収集した上で計量的な分析を行うという手法は、学生にとってもはや当たり前のものであっており、身につけたスキルをレポートや卒業研究で使いこなす姿も珍しくありません。また日本語の諸方言(日琉諸語)や他言語を意識した視点は、日本語の多様性を考える上で非常に重要です。卒業研究で方言を取り上げる学生は毎年おり、ことばの地域差あるいは世代差といった問題に目を向けている点は意義深いことだと感じます。どんなお題目を立てようとも、結局のところ「ことばを観察する」というところからスタートするしかありません。学生たちは、身近な存在である日本語を追究していく難しさや面白さを実感しつつ、日々学んでいます。

卒業生の皆さまのご活躍する姿は、学生たちにとっても大きな励みとなっております。時折、近況などをお寄せいただくとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 卒業生進路状況

出典【人文学部案内2026】(富山大学人文学部)

## 人文学部 人気の就職先は? トップは「公務」

富山大学人文学部でのさまざまな学びを通じ、「幅広い教養」と「深みのある専門的知識」を身につけて卒業した先輩たちは、とても多彩な就職先で活躍を続けています。

中でも人気なのは「公務」と「卸売・小売業」、「製造業」で、卒業生の3人に1人はこのいずれかの業種で就職をしています。幅広い知識だけでなく、とりわけ人文学部が重視する「さまざまな背景を持つ多様な人々とコミュニケーションをはかり、共に社会に貢献するチカラ」が求められる仕事だからこそ、卒業生たちが存分に能力を発揮でき、高い評価につながっています。

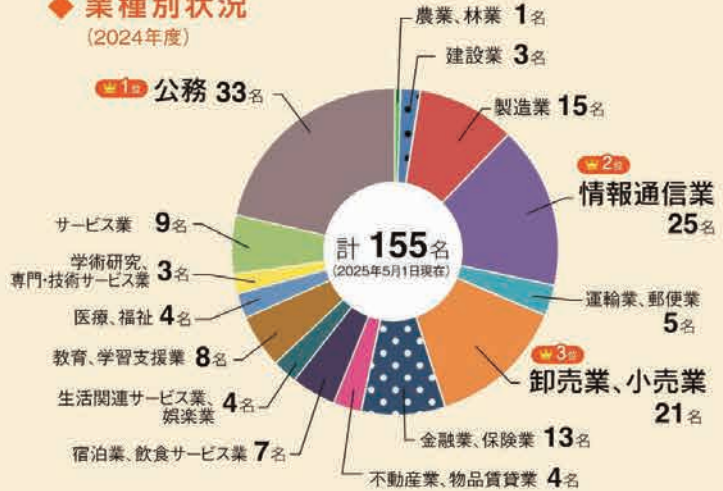
また、北陸地域の「人づくり」の拠点として、富山・石川をはじめとする「地元」の多くの企業に評価され、卒業生の半分近くが採用されていることも、富山大学人文学部の特長と言えるでしょう。

**卒業生の就職先 トップ 3**  
(2020~2024年度)

- 1 公務** 都道府県庁、市役所、区役所、町役場、警察、図書館、埋蔵文化財センター…
- 2 卸売業、小売業** スーパーマーケット、デパート、書籍・衣料品・自動車・家電などの販売店…
- 3 製造業** 食品、飲料、機械、医療品、印刷、電気・電子機器…

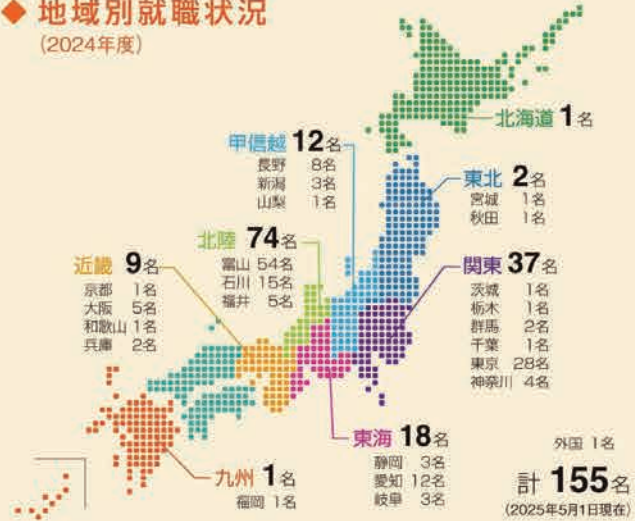
### ◆ 業種別状況

(2024年度)



### ◆ 地域別就職状況

(2024年度)



### ◆ 主な進路 (2020~2024年度)

公務	卸売業、小売業	金融業、保険業	情報通信業	その他の業種
富山県庁 富山・高岡・射水・滑川・魚津・南砺 小矢部市役所 富山地方裁判所 石川・福井・長野・福島県 京都府・北海道庁 金沢国税局 金沢・長野市役所 富山・長野労働局 北陸・東海財務局 気象庁 法務省 など	(株)スギノマシン 三協立山(株) YKKAP(株) (株)村田製作所 大王製紙株式会社 など	(株)富山第一銀行 (株)北国フィナンシャルホールディングス (株)北国フィナンシャルグループ みずほ銀行 明治安田生命保険相互会社 東京海上日動火災保険(株) (株)八十二銀行 など	(株)ケーブルテレビ富山 (株)インテック (株)北国新聞社 富山テレビ放送(株) (株)チューリップテレビ (株)北日本新聞社 など	教育、学習支援業 建設業 サービス業 医療、福祉 運輸業、郵便業 複合サービス事業 など
<b>製造業</b> (株)不二越	アルビス(株) (株)大阪屋ショップ (株)メガネのハラダ (株)クスリのアオキ 三谷商事(株) など	(株)北陸銀行 (株)富山銀行	<b>進学</b> 富山大学大学院 東北大学大学院 名古屋大学大学院 大阪大学大学院 北海道大学大学院 九州大学大学院 奈良女子大学大学院 東京大学大学院 など	

# 人文学部おたから紹介

## 第一回

### 資料展示室と二枚の写真

富山大学准教授 入江 幸二

前回まで「人文学部のあゆみ」と題して、旧制富山高等学校から人文学部の歴史にまつわるエピソードを紹介してきましたが、今回から少し趣向を変えて、人文学部の「資料展示室」にあるモノを紹介していきます。

この資料展示室は人文学部棟の二階、同窓会事務室の隣に位置しています。全学の歴史資料等を収集・保管する「富山大学アーカイブズ歴史資料館」が二〇二二年四月に開館しています。が、決して十分な広さがあるわけではなく、また人文学部にも独自の歴史資料があることから、鈴木景二教授のご尽力で資料室が二〇二三年に設置されました。写真のとおりガラスケース等に種々の資料を展示していますが、今回は資料室中央のテーブルに展示している二枚の写真を紹介いたします。



向かって右側が、旧制富山高等学校の初代校長である南日恒太郎先生の写真。現在の富山市出身で苦学ののち学習院の教授となられ、またその英語参考書がベストセラーとなったことは本誌第三十九号でも紹介しました。そして左側の写真が、第二代校長の柴山槐郎先生。大分中学校長・樺太庁中学校長・富山中学校長を歴任されたのち旧制高校の教頭となられ、南日校長急逝ののち二代目の校長となら

れました。

ちなみに写真の額縁は今も売られている型なので比較的最近額装されたものですが、写真は『富山高等専修学校十年史』（一九三三年刊）に掲載されたものと同じです。

これらは旧人文棟が取り壊される際に現人文棟に持ち込まれたものと思われ、教員談話室にある戸棚の中にひっそりと保管されていました。



資料室は普段は非公開ですが、オープンキャンパスなどの際には開室しています。まだまだ資料が少ないものの、機会がありましたら一度覗いていただくとともに、人文学部に関わりのある古い史資料をお持ちの方がおられましたらご相談いただけますと幸いです。

## 会費の納入状況

会費納入状況をお知らせいたします。  
2025年6月から2026年3月まで157名の方から159,000円の会費を納入していただきました。  
また14名の方から終身会費140,000円を納入していただきました。  
ご支援ご協力に厚く御礼申し上げます。

## ホームページのご案内

人文学部ホームページでは、各種お知らせや、総会、人文の集い、理事会等の詳細を掲載しています。

会則や役員名簿などもご覧になれます。



## 新刊案内

～人文学部ゆかりの方々の新刊を紹介します。

- 『プロセス・ベースド・セラピーをまなぶ「心の変化のプロセス」をターゲットとした統合的ビジョン』  
重松潤（講師）著、金剛出版、2023年10月刊
- 『意味がわかるA1入門——自然言語処理をめぐる哲学の挑戦』  
次田瞬（講師）著、筑摩書房、2023年11月刊
- 『支える側・支えられる側の社会学——難病患者、精神障害者、犯罪・非行経験者、小児科医、介助者の語りから』  
伊藤智樹（教授）著、晃洋書房、2024年4月刊
- 『大学で心理学を学びたいと思ったときに読む本心の科学への招待』  
重松潤（講師）著、誠信書房、2024年5月刊
- 『ホロコーストと〈愛〉の物語』  
秋田万里子（講師）著、彩流社、2024年7月刊
- 『保育カウンセリングのエッセンス 保育臨床における見立てと支援』  
喜田裕子（教授）著、福村出版、2024年11月刊
- 『馬券黙許時代 1 愛馬心の涵養、馬匹改良の捷徑は競馬にあり（競馬の社会史2）』  
立川健治（名誉教授）著、世織書房、2024年12月刊
- 『変貌するエチオピアの光と影—民族連邦制・開発主義・革命的民主主義の時代』  
石原美奈子ほか編、藤本武（教授）ほか執筆、春風社、2025年2月刊
- 『人文知のカレイドスコープ [2025]』（富山大学人文学部叢書 8）  
富山大学人文学部編、桂書房、2025年3月刊
- 『言語能力は人工知能で解明できるか』  
ノバート・ホーンステイン著、折田奈甫ほか編、次田瞬（講師）ほか指定討論、岩波書店、2025年5月刊
- 『食文化からアフリカを知るための65章』（エリア・スタディーズ 213）  
藤本武（教授）、八塚春名ほか編著、明石書店、2025年5月刊
- 『問いの技法 明晰な思考と円滑なコミュニケーションのために』  
佐藤裕（教授）著、青弓社、2025年5月刊
- 『立山観光ヒストリア』  
高野靖彦（院歴史文化平成28年卒）、北日本新聞社、2025年7月刊
- 『富山の近世・近代 富山藩を中心に』  
栗三直隆（史学昭和25年卒）著、桂書房、2025年7月刊
- 『書店の歴史・富山県 地方都市・小都市の書店に流れた歳月（報告）』  
朝日奈満里子著刊（英文昭和44年卒）、2025年10月刊
- 『押し付けられる結婚「官製婚活」とは何か』  
斉藤正美（大学院人文科学研究科修士課程日本・東洋文化（社会学）修士・非常勤講師）著、新日本出版社、2025年11月刊
- 『人文知のカレイドスコープ [2026]』（富山大学人文学部叢書 9）  
富山大学人文学部編、桂書房、2026年3月刊

報告

二〇二五年度

同窓会総会

二〇二五年度総会を、七月十三日(土)に富山大学人文学部で開催しました。

まず、四月から就任された伊藤智樹人文学部長と米原寛同窓会長が挨拶しました。

議事では、二〇二四年度事業報告、決算報告等が承認されました。次いで二〇二五年度事業計画及び予算案が案通り承認されました。引き続き役員人事案を協議し、新たに米原寛会長は常任理事に、廣瀬裕一副会長が

会長に、中崎圭子監事が副会長に、高野靖彦理事が監事に就任しました。

総会終了後、「こんにちは。現役の人文学部生です」と題して人文学部四年、高橋冨さん(社会文化コース人文地理学分野)が講演されました。「なぜ大学に入学したか」という問いに答えられず、答えを探そうとして取り組んだ幅広い活動実践を紹介されました。最後の「地域の未来をデザインする人間に

なりたい」という言葉が印象的でした。交流会では、高橋さんへ様々な質問もありました。



その夜は、県外からの参加者を交えて楽しいひと時を過ごしました。来る今年度総会では夜の交流会を企画しますので、奮ってご参加ください。

報告

第十二回 人文の集い

第12回「人文の集い」を、昨年十月十八日(土)に富山大学人文学部で開催しました。講演は「ソンドラのエコロジー」トナカイ遊牧民コリヤークの世界観・動物資源観」、講師は富山大学名誉教授呉人恵氏でした。

コリヤーク語研究者で、現在は北海道立北方民族博物館・館長を務める呉人先生のお話は臨場感あふれるシベリアでのフィールドワーク体験を交えて、言語から衣食住全般へも洞察を広げ、更に深く考察され、大変興

味深く拝聴しました。

家族と駆け付けた教え子さんや学部生の参加もありました。



講演終了後、呉人先生を囲み、昼食交流会を開催し、富山県方言の話題も出ました。その後富山県方言については、当日

参加した同窓生が、日本語学の高城先生の研究に協力しています。「人文の集い」が大学の研究と同窓生を繋ぐ場となりました。

総会の記念講演と「人文の集い」の講演は、参加費無料でどなたでも参加できます。昼食会の参加は富山大学関係者のみで、会費二千元(学生は五百円)です。

総会、「人文の集い」どちらも同窓会事務局へお申し込みください。同封ハガキの他、メール電話FAXもご利用ください。多くの方のご参加をお待ちしています。

第13回 「人文の集い」ご案内

日時 2026年10月24日(土)
講演 10:00~
昼食会 11:50~
会場 人文学部第1講義室
講演:「人文学部で学んだことと私の仕事」
講師:一般社団法人地域・観光マネジメント代表理事 塚本 昌紀 氏 (文化人類学 平成21年卒)

2026年度 総会のご案内

日時 2026年7月11日(土)
総会 13:30~ 講演会 14:30~
交流会 16:00~
会場 人文学部第1講義室
講演:「俳句の楽しみ-詠む・読む・知る-」
講師:富山県現代俳句協会副会長 森川 敬三 氏 (国語国文学 昭和57年卒)

人文学部教員異動

採用(令和7年9月1日)
二本松直人(心理学)講師
採用(令和8年4月1日)
米谷充史(心理学)講師

訃報 謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 石川 敬子(英文学 昭和39年卒)
桑名 保明(国文学及び中国文学 昭和37年卒)
中道 悟(英文学 昭和30年卒)
中満(松田)純子(国文学 昭和43年卒)
中本 昌年(富山大学名誉教授 哲学 令和7年10月8日)逝去
畑中(山崎)敦子(文化人類学 昭和61年卒)
細川 勝児(ドイツ文学 昭和35年卒)
松川(津幡)恵美(文化人類学 昭和59年卒)
丸山 隆久(史学 昭和37年卒)
袁(水原)淳子(英文学 昭和36年卒)
宮本瑠美子(国語国文学 平成7年卒)
山崎 欽示(史学 昭和37年卒)
山崎 升(英文学 昭和28年卒)

編集委員

- 田中 史子 中崎 圭子
成瀬裕美子 高波 満里
谷口 恵子 寺井 柚美